気力、能力、意欲、それを常に言い聞かせる。

建築板金
中村量貢

なかむら　りょうこう

――板金を始めたきっかけは？

好んで入ったわけでもないし…この年代の人たちは裕福な人が多くなかったし、ほとんどの人は職について、同級生も多種多様でやっていた。まぁ、偶然親戚が板金をやっていたからそのまま手っ取り早く就職しようとしたということ。

――仕事を続けようと思った決め手は？

別に何も感覚なくやっていたらずっと続けていて…そしたら自然に続いていた。今でもそうだけど、昔は「働かざる者食うべからず」だった、働けばなんとかなると。中学のとき「働くと言う字は人が動くと書くんだよ」と言い聞かされていたね…。

――最大のピンチはありましたか？

商売、金がなくなった…お金がないのが最大のピンチだよね。仕事がない＝自分の努力が足りないっていうことだから…。金関係以外のピンチは改めてないね。手形を続け、渡り歩いていく。そうやってどんどん渡り歩いていると色んな人から信用をもらってお金がないときにドンッと貸してくれる人もいるし、銀行からも貸してくれたりする（預金があるから）。でもそれは商売当所全くないから大変なんだよね。今は…へそくりっていうやつがあるから。（笑）そう考えるとお付き合いは大切。相手への信頼が蓄積しているから認めてくれお金を貸してくれる。それだけですね。

――仕事でのストレスの解消の仕方は？

あんまりストレスを感じることがないんだけどなぁ…。あるとしたら仕事に打ち込むっていうことだね。そうすると…ストレスも何もないですね。仕事して見習うっていうことはストレスを感じている暇がないんですよね。感じたら仕事が出来なくなってしまう。だから、ストレスにならないように頑張らなきゃいけない。昔は技を教えてくれる先生がカッとなるとすぐ怒られ、ぶん殴られるか蹴飛ばされたりした。まぁ、そういう時代だから仕方がない。そうするとすぐにたまり、どんどん出来なくなる。だから、仕事に打ち込んでストレスを感じなくなった。駄目かな？

――趣味は何ですか？

もう仕事ばっかりで打ち込んでますからねぇ…まずいかな仕事じゃ？（笑）高度成長期のときにはクラブに行ったり、従業員がいれば自動車を1台買ってゴルフに没頭していたけどね。今は不景気だから遊んでいる場合じゃない。時代に合った遊びになっちゃうから今はないのかな。毎日仕事ですからね。仕事に没頭していると何も考えなくなっちゃうの。色んなことを考えていたらケガをしてしまうけど。そんなところです。

――若い頃は？

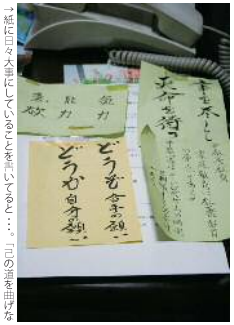
中学を卒業したらすぐ建築板金をやったからなぁ…。私みたいに「学校へ行ってない」と威張っている人もいますけど。（笑）仕事に誇りを持っていますから。中学から出ようとそれは学校卒業してからの課題ですから。まぁ、大学へ行って就職がないって行って言う人もいますけど我々のときは仕事だらけでしたからね。高校3年間行っている人は勉強などしていますがその3年間の間私たちは技術を習得しますからね。それはホント大きな差だと思いますよ。川崎に上京したときは「川崎一番の板金になろう」という意気込みできた。…今ではもう一番になっちゃたけど。（笑）やっぱり目標がないと駄目じゃないですか。今、学校行くあななたちは目標がなく通っていたりするでしょ？だから、例えばモノが一つ出来て「やったぁ」と思う。そういう一つ一つの積み重ねが人生を築きあげていく。結果はすべてあとに出る。飽きずに努力すること。大切じゃないですかね。

――後継者に自分の技を教えることで大変なことはありますか？

時代も違って教えるのも難しい。せがれが跡を継ぐんですけど。間違えたりすると注意をしなきゃいけないでしょ？そのときに「いじめられた」という感覚をもってしまうんですよ（ジョークが通じなくて）。それで今度いじめ返してやると言われる。我々のときは先輩のことは絶対服従ですから。言うことを聞かなかったらモノが飛んできたり、無理矢理ひっぱたかれたりしたからね。今は忍耐力、我慢がなくなったね。心の中じゃ反抗している。口に出さないで無理矢理押し込められちゃう。工業系の人たち…ですか。我々の場合感覚やることが多いから1＋1＝2じゃなく3や0になったりする。コンピューターと違って大変なんで…。だから、こっちが分かっていても相手が分かっていないことが多いから大変。素直に聞けば良いところをムカッとして聞いてる。むかつくっていうやつですねぇ…。

――生まれ変わったら何をやりたいですが？

なんでも良いから仕事。手に職をつけたいね。手職。大体私頭が悪いから大きな事を考えられないんですねぇ…。まぁ、技術者なら何でもやりたいですね。どうせやるなら独立してやりたい。悔いのない前世を過ごしたい。



→紙に日々大事にしていることを書いてると…。「己の流を曲げない」。そんなふいが伝わってきます。私もそうなりたいです。中村さんの言葉一つ一つに重みがありました。

――最後に私たち工業科の学生に向けてメッセージを下さい！

ひたすら努力ですね。1に努力、2に努力。でも、すべてがお勉強ですからその中に感情が入ったり色んなことがあるので…まぁしょうがないんだよな、学生だし。先生も間違って教えている場合もあるけど、人の足を引っ張らないようにいずれ自分が引っ張られるから…今のうちに協力しあって良い伝統になるんじゃないですか？奈良県の某工業高校が毎日立ち止まってあいさつをしていることがとても良いことで、その学校の就職率は100％なんだよね。そう考えるとあいさつはホントに大切なんだよね。どんなに頭が良くても常識が出来ていなかったら「学」だけが出来るということで頭が良いっていうことじゃないですか。そういう人は衰えているね。アドバイスは…ひたすら頑張れだな。高校3年生くらいになると忍耐力がついてくるからね。人の言うことはちゃんと聞いてソレを自分なりに練って提案し、歩む。あなたたちはひたすら前を向いて歩むだけだから後ろをむいちゃ駄目。反省しっぱなしも駄目。言葉ではしているけど自分は全然していない。反省するからにはすぐ結果を出さないといけない。立場によって自分らしく。それが大切。